

公園の魅力発信の充実で、来園者を増やす

北杜市高根町の南清里フラワーパーク企業組合（長田正彦理事長 組合員47名）は、中央会の取引力強化推進事業補助金を活用し、来園者増加のための広告宣伝機能の強化事業に取り組んだ。

同組合は2000年7月にオープン、国道141号線の道の駅南きよさと隣接する5.5ヘクタールの敷地で40種類以上の花卉・果物・野菜を栽培、優れた眺望と農産物の収穫体験、クラフト製作体験など複数の行楽を一か所で楽しめる施設として観光客に好評であった。

一方、公園には道の駅南きよさとから標高差100mの高台にあるためリフトカーに乗車して訪れる必要があり、場所がわかりにくいという難点があった。また、各種の花や果物、野菜などの最盛期をタイムリーに告知して集客に活かすということができずにいた。

そこで、広告代理店 beALPHA（代表 澤登武仁）の協力を得て、集客力アップのための案内看板等の設置計画の立案、紹介パンフレットの作

南清里フラワーパーク企業組合

成、ホームページのリニューアルに取り組んだ。

パンフレットは、ドローンで撮影した公園全体の案内用と果物や野菜の収穫体験紹介用の2種類を作成、道の駅をはじめ八ヶ岳南麓の宿泊施設や観光案内所等に置いてもらうこととした。また、ホームページは、WordPressというブログソフトウェアで開発、公園スタッフがパソコンやスマホから簡単に公園の最新の情報を発信できるようにした。

藤原専務理事は、「組合員や従業員は、これまで果物、野菜や花などの育成や接客に追われ、お客さんにもっと訪れてもらえるようする取り組みまで手が回らなかった。今回、広告宣伝のプロの力を借りて、パンフレットの作り直しや情報発信のできるホームページのリニューアルができた。今年は、道の駅内に画像を流す告知設備を設置するなどして公園の魅力発信を充実させ、来園者の増加に努めたい。」とコロナ禍により来場者が減った中でも、積極的に取り組んでいく姿勢を語ってくれた。

